

MISC

SCIM を使う

```
XMODIFIERS='@im=SCIM'  
GTK_IM_MODULE=scim  
scim -d
```

Tgif で使う

```
Tgif.DoubleByteInputMethod: xim
```

Java で日本語

```
cd $JDK/jre/lib/fonts  
mkdir fallback  
cd fallbacka  
ln -s $FONTDIR/*.ttf .
```

FONTDIR は、たとえば /usr/share/fonts/japanese/TrueType/ とか

Thinkpad X40 に Gentoo Linux をインストール

Gentoo/CoLinux

インストール後ディスクを増やす

<http://gniarf.nerim.net/colinux/fs/>

から、イメージをもってきて、利用。

su できない ...

なぜか /bin/su の setuid ビットが落ちていた。

でも、知り合いは大丈夫だったという ... なぜ？

vncserver

tightvnc でインストール

vnc で X11 のフォントが見つからないといわれたとき

tgif とかで、courier-medium-r とかのフォントがないといわれるときは

/etc/conf.d/xfs の、XFS_PORT に 7100 を指定

/etc/X11/fs/config の、no-listen=tcp をコメントアウト

これで、xfs がポート 7100 をはって起動してくれるようになる。

起動時に起動したければ、いつもどおり、

```
rc-update add xfs default
```

で、`emerge` で、`jisx0213-fonts` や `kochi-substitute` , `shinonome` なんかを追加追加したフォントは、`/etc/X11/fs/config` の `catalogue` に追加しておくで、`vncserver` 起動時に `vncserver -fp tcp/localhost:7100` とか

X のモジュール化のために

`xfs` が、`x11-xorg` を `emerge` してもインストールされないので別途インストール

`windows` の `/etc/hosts`

```
C:¥WINDOWS¥system32¥drivers¥etc¥hosts
```

にあるので、ここに `coLinux` に割り当てた IP と名前を書いておくことに

gentoo Linux

基本的に `portage` でぼこぼこアプリケーションいれられるのは FreeBSD っぽい感じ。システムのディレクトリ構造なんかも、似てる ... というようり似せてあるそうです。

設定は `vi` で

インストール時にマニュアルに "`nano -w`" ってかいてあるけど ... システムの設定は `vi` でないと、なんか気持ち悪いくらい `vi` の方が好きなので、インストール時に `emerge` 使えるようにして、すぐに

```
% emerge vi
```

ちゃんとインストールできるのは便利。

`rc.conf` でデフォルトエディタを `vi` に変更しておけばいい

時計

`CLOCK="local"` でシステムクロックにあう。UTC のままだと Windows との共存なんか面倒。しかし、どうやっても Windows とで、時計がずれてしまったので、`ntpdate` したあと `hwclock` で強制的にシステムクロックと linux の時計をあわせてみました。

キーボード

`/usr/share/keymaps/i386/qwerty/` の下

`Ctrl` の場所をかえる時には、`jp106` を書き換えてもいいし、`rc.conf` でオプションとして設定することもできる。

rc-update

FreeBSD でいうところの `/etc/rc.d/` や `/usr/local/etc/rc.d/` 的なスクリプトは `/etc/init.d/` 以下に。linux なので `runlevel` でそれらのスクリプトの起動/終了は制御される。`/etc/runlevels/` の下の各ディレクトリがランレベルに対応している。ここに、起動したいスクリプトへのリンクをおいておけば、起動する。

`rc-update` というコマンドもあるけど ...

各スクリプトが `start` および `stop` に対応するエントリをもっている。

また依存関係を示す、`use` と `need` がある。`need` は強い依存関係

`nfs` と `nis` を使う場合、`nis` に先に起動して来て欲しいので、`netmount` の `use` か `need` に `ybind` を追加する方がいい。

- ・ ypbind は runlevel/default におかない (2004/09/20)

/etc/module.conf

は自動的に生成されるので、alias とかは、/etc/modules.d/alias とかに書く。

fonts.conf

firefox のフォントが恰好わるいときとか ~/.fonts.conf

```
<?xml version="1.0"?>
<!DOCTYPE fontconfig SYSTEM "fonts.dtd">
<!-- /etc/fonts/local.conf file to configure system font access -->
<fontconfig>

  <!-- Font directory list configured on -->
  <dir>/usr/X11R6/lib/X11/fonts/truetype</dir>
</fontconfig>
```

もちろん、truetype は必要

make.conf

/etc/make.conf の設定を使って portage システムは動きます。

日本語が欲しかったり、必要以上にいろいろリンクした fvwm は欲しくなかったりで USE フラグはこんな感じ。

```
USE="cjk -gnome -gtk -kde -qt emacs alsa mmx nls canna X truetype java ssl perl"
```

頭のマイナスで、オプションを指定しないことになる。

FreeBSD の ports みたいに、japanese っていうカテゴリを設けるよりもフラグで分ける方が便利なのかもしれない。

- ・ perl がないと system の emerge 時に失敗してしまう (2004/09/20)

NIS クライアントにする

portmap/yp-tools/ypbind を emerge

Debina on XP1000

Alpha マシンがあまっていたので。

起動途中で C-c で boot プロンプトをだして CD-ROM ブート。

FedoraCore

カーネルのビルド

Fedora Core6 の場合

[Diary/2007-4-17](#)

キーマップ

```
/etc/sysconfig/keyboard
```

の値で設定されている
日本語環境での実体は、

```
/lib/kbd/keymaps/i386/qwerty/jp106.map.gz
```

これを、解凍して、

```
keycode 29 = Caps_Lock  
keycode 58 = Control
```

と変更すればいい。

ログインシェル

Linux ユーザにとっては当たり前なのだろうけど、`/bin/sh` は `/bin/bash`
私は設定で `.profile` に `zsh` がない場合に `bash` を起動するように記述していたので
無限ループに ... 気を付けましょう

`.bash_profile`

上記のように `.profile` で shell を起動しなおしていたのですが、
gdm 経由でログインしようとする、以下のようなエラーがでてログインできない

```
/etc/X11/gdm/PreSession/Default: Registering your session with wtmp and utmp  
/etc/X11/gdm/PreSession/Default: running: /usr/bin/X11/sessreg -a -w ?  
/var/log/wtmp -u /var/run/utmp -x "/var/gdm/:0.Xservers" -h "" -l ":0" "miyo"  
Warning: no access to tty (Bad file descriptor).  
Thus no job control in this shell.  
stty: 標準入力: デバイスに対する不適切な ioctl です  
.
```

`.profile` が変によりみこまれているようなので、
ダミーのために、`.bash_profile` と `.bashrc` を touch
とりあえずログインできるようになった
gdm じゃなくて xdm に変更すればよかったのかな、とも思う。

yum

アップデートプログラム

サーバなどの設定は `/etc/yum.conf` に記述